

スルガ銀行

2020年度第1四半期 決算概況

2020年8月14日

スルガ銀行

■ 2020年度第1四半期実績 見通し対比

- ・第1四半期決算実績は、概ね通期見通しに沿った進捗。
- ・経常収益は、221億円となり、通期見通しに対して26.0%の進捗。
- ・実質与信費用は、73億円となり、上期見通し140億円に対し、52.7%と概ね見通しに沿った要因を織り込んだ進捗。
通期見通し200億円に対し、36.8%の進捗であるが、下期にシェアハウス関連融資の債権譲渡に伴う貸倒引当金戻入を織り込み、
下期実質与信費用は、60億円の計画であり、見通しに沿った推移。
- ・当期純利益（単体）は、実質与信費用の進捗により、通期見通し5.6%の進捗に留まるものの、上期見通し40億円の赤字に対し、2億円の黒字。
- ・当期純利益（連結）も、単体と同様の理由から、通期見通し8.4%の進捗に留まるものの、上期見通し35億円の赤字に対し、5億円の黒字。

【単体】

	第1四半期 実績 ①	期初見通し		通期 ②	進捗 ①/②
		上期	下期		
経常収益	221	430	420	850	26.0%
業務粗利益 (A)	183	360	340	700	26.2%
経費 (B)	104	220	210	430	24.3%
コア業務純益	79	140	130	270	29.3%
経常利益	5	0	70	70	8.2%
純利益	2	▲40	90	50	5.6%

実質与信費用 (C)	73	140	60	200	36.8%
------------	----	-----	----	-----	-------

RA業務粗利益 (A-C)	110	220	280	500	22.0%
---------------	-----	-----	-----	-----	-------

OHR (B÷A)	56.8%	61%	61%	61%	
-----------	-------	-----	-----	-----	--

自己資本比率	10.49%	10.3%		10.8%	
--------	--------	-------	--	-------	--

【連結】

(億円)

第1四半期 実績 ③	期初見通し 通期 ④	進捗 ③/④
250	960	26.0%

9	80	12.1%
5	60	8.4%

※RA(Risk Adjusted)業務粗利益 = 業務粗利益 - 実質与信費用

※業績見通しは、新型コロナウイルス感染症による影響について、見通し策定時に想定される事象を考慮し算出しておりますが、当該影響が長期間にわたり継続する場合には、与信費用の更なる増加等、業績見通しに変更となる場合があります。

■ 実質与信費用、シェアハウス関連融資について <単体>

- ・シェアハウス関連融資先の実質与信費用は、債権譲渡希望のお客さまの返済停止に伴うランクダウン・延滞の増加により11億円を計上。保全率については、担保等による保全と引当金により前期末比1.07%改善し、92.36%。
- ・投資用不動産ローンの実質与信費用は、50億円を計上。

・実質与信費用・貸倒引当金について

(億円)

項目	実質与信費用 1Q	貸倒引当金
シェアハウス関連融資先	11	1,037
投資用不動産ローン ※	50	586
住宅ローン	8	55
無担保ローン	3	29
事業性貸出等	0	88
合計	73	1,797

※投資用不動産ローン：ワンルームローン、一棟収益ローン、その他有担保ローン

・シェアハウス関連融資保全状況

	総与信残高		保全額 B	未保全額 C	引当額 D	保全率 (B+D)/A
	A	シェアハウス債権				
2019年 9月	2,461	1,993	906	1,555	1,351	91.74%
2020年 3月	1,921	1,547	727	1,193	1,025	91.29%
2020年 6月	1,904	1,540	721	1,182	1,037	92.36%

※ シェアハウス関連融資のある債務者ベース

※ 保全額：担保等による保全額に一定割合を乗じた保全見積額

※ 総与信残高、シェアハウス債権：貸出金・貸出金に準ずる仮払金・貸出金未収利息

■ ローン種類ごとの残高、利回り、延滞率 <単体>

・個人ローンの延滞率の上昇（2020年3月末比+0.54%）は、シェアハウス関連融資先が利用しているシェアハウスローンやその他のローンの延滞額が増加したことに加え、コロナ影響を鑑み、四半期ごと実施している債権譲渡を見送ったことが主因。

<個別説明>

- ・住宅ローンの延滞率の上昇（2020年3月末対比+0.20%）は、コロナ影響により主に会社代表者・個人事業主等の返済困難先増加が主因。
- ・シェアハウスローンの延滞率の上昇（2020年3月対比+3.45%）は、シェアハウス関連融資先のお客さまの債権譲渡希望に伴う返済停止が主因。
- ・法人向け投資用不動産ローンやアセットファイナンスの取り組みは堅調。（2020年6月末残高99億円）

（億円）

ローン種類	2020年3月			2020年6月		
	残高	利回り	延滞率	残高	利回り	延滞率
有担保ローン	20,990	3.12%	4.14%	20,655	3.09%	4.70%
住宅ローン	5,513	2.87%	0.59%	5,377	2.86%	0.79%
ワンルームローン	1,956	3.41%	1.65%	1,889	3.40%	1.92%
一棟収益ローン	11,561	3.33%	3.34%	11,448	3.28%	3.68%
シェアハウスローン	1,546	1.47%	27.89%	1,539	1.46%	31.34%
その他有担保ローン	412	4.89%	1.05%	399	4.85%	1.29%
無担保ローン	2,079	10.23%	1.76%	1,957	10.23%	1.93%
カードローン	1,384	11.52%	0.70%	1,292	11.56%	0.78%
無担保証書貸付等	694	7.66%	3.88%	664	7.65%	4.15%
個人ローン	23,070	3.74%	3.93%	22,612	3.69%	4.47%
法人向け投資用不動産ローンやアセットファイナンス	66	2.19%	-	99	2.23%	-

※延滞率 = 3カ月以上延滞債権 ÷ ローン残高

※利回り：対顧客利回り（保証料、未収利息勘案前）、未残ベース

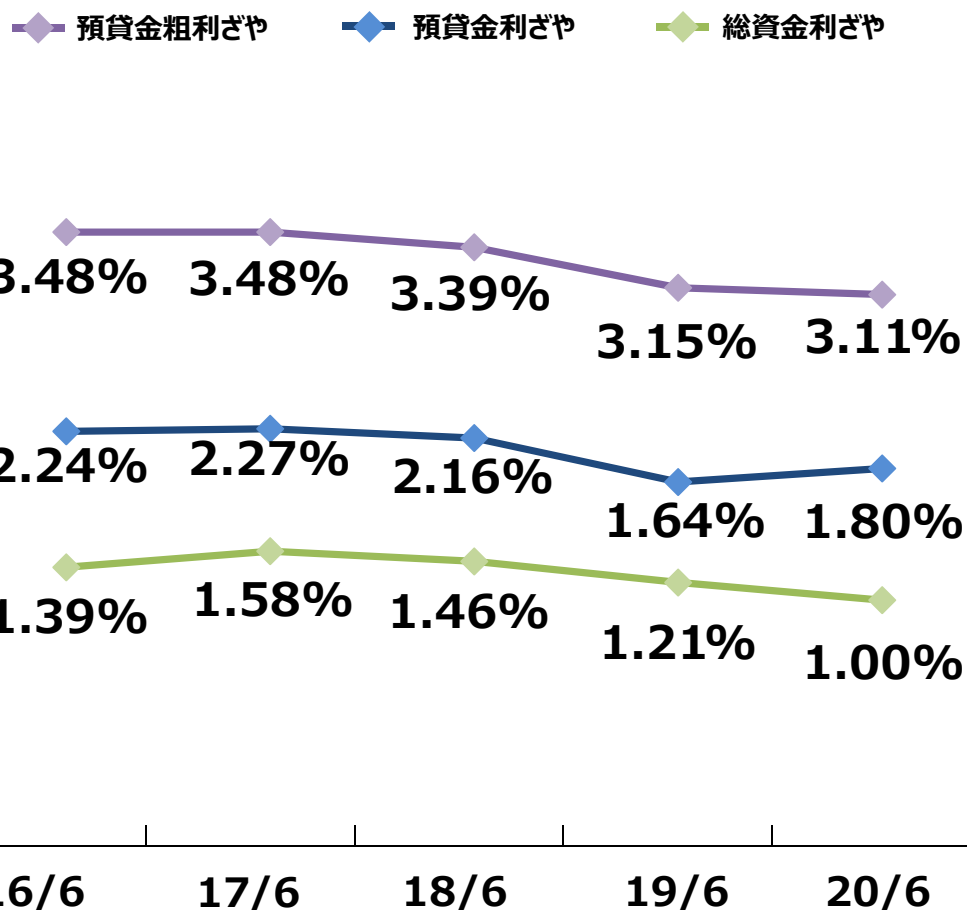
※ワンルームローン・有担保ローン・個人ローンの利回り・延滞率は証券化した債権を原債権ベースで算出

※商品単位で集計しており、シェアハウスローンの利用者が約定期返済を止めている場合、他の商品の延滞率にも影響

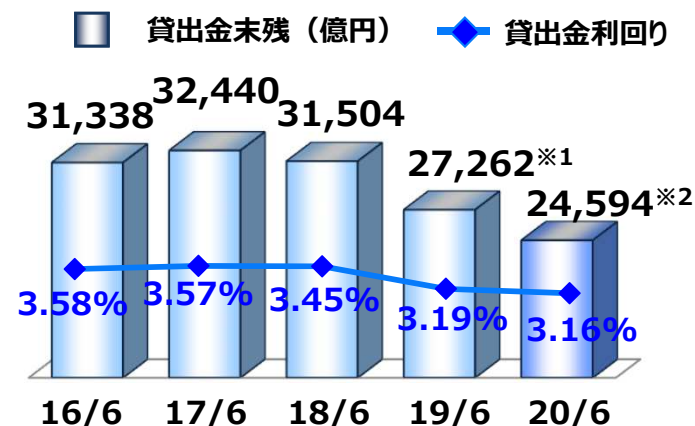
■ 利ざや等の状況 <単体>

- ・預貸金利ざやは、経費の減少と預金平残の増加に伴い、経費率が0.20%低下したことを主因に前年同期比0.16%拡大し、1.80%。
- ・総資金利ざやは、日銀預け金等の増加により資金運用利回りが低下したことを主因に前年同期比0.21%縮小し、1.00%。
- ・貸出金残高は、特殊要因による約1,000億円の減少も含め、前年同期比2,668億円減少し、2兆4,594億円。
- ・預金残高は、前年同期比1,293億円増加し、3兆2,711億円。

利ざや等の状況

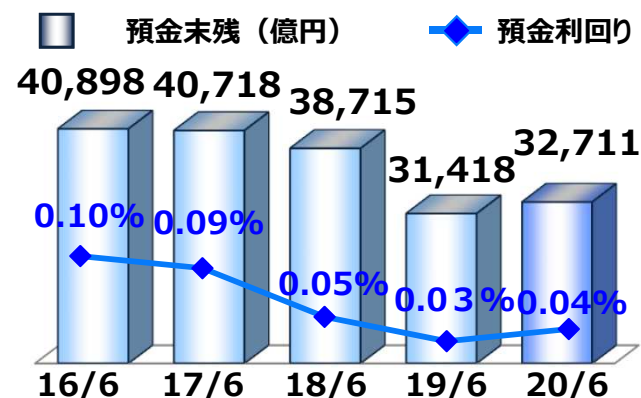


貸出金利回りと貸出金末残



※1 19/6期の減少要因には、ワンルームローンの証券化による約1,000億円を含む
 ※2 20/6期の減少要因には、創業者ファミリー企業の融資取引解消、シェアハウス関連融資債権の譲渡による約1,000億円を含む

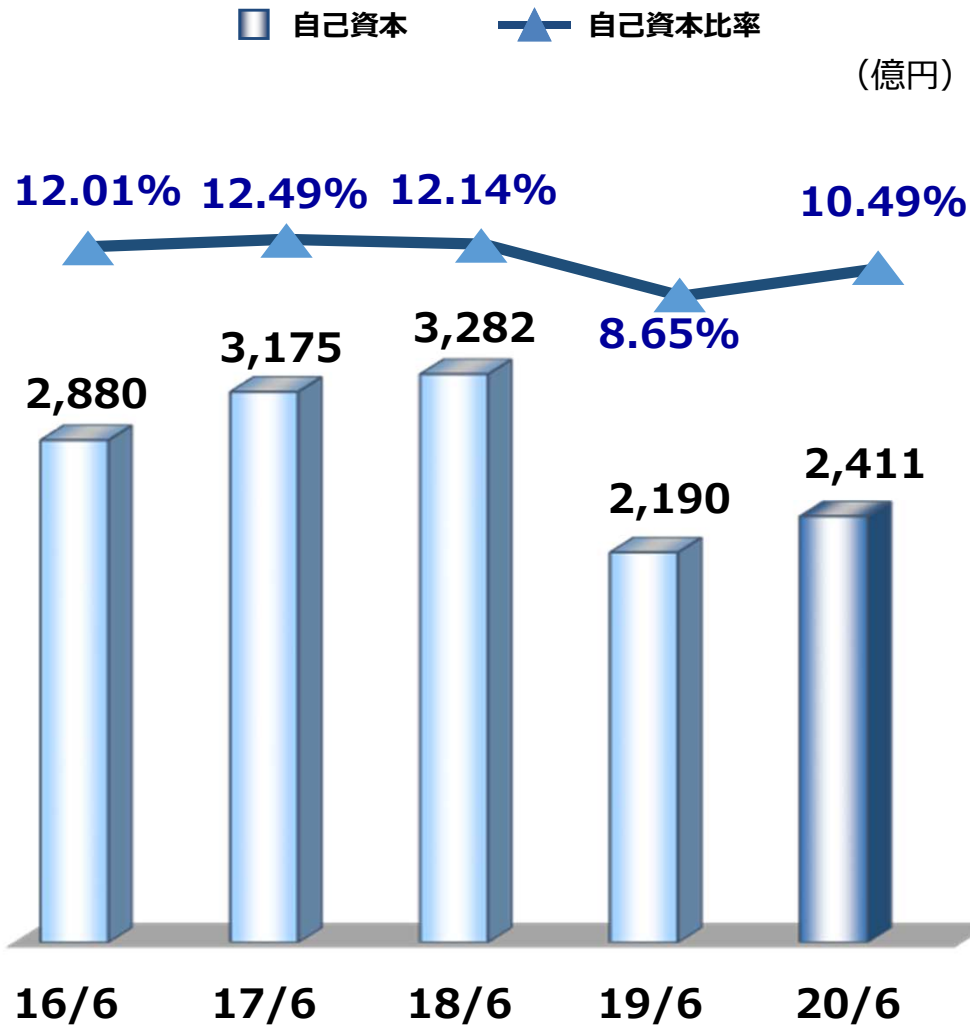
預金利回りと預金末残



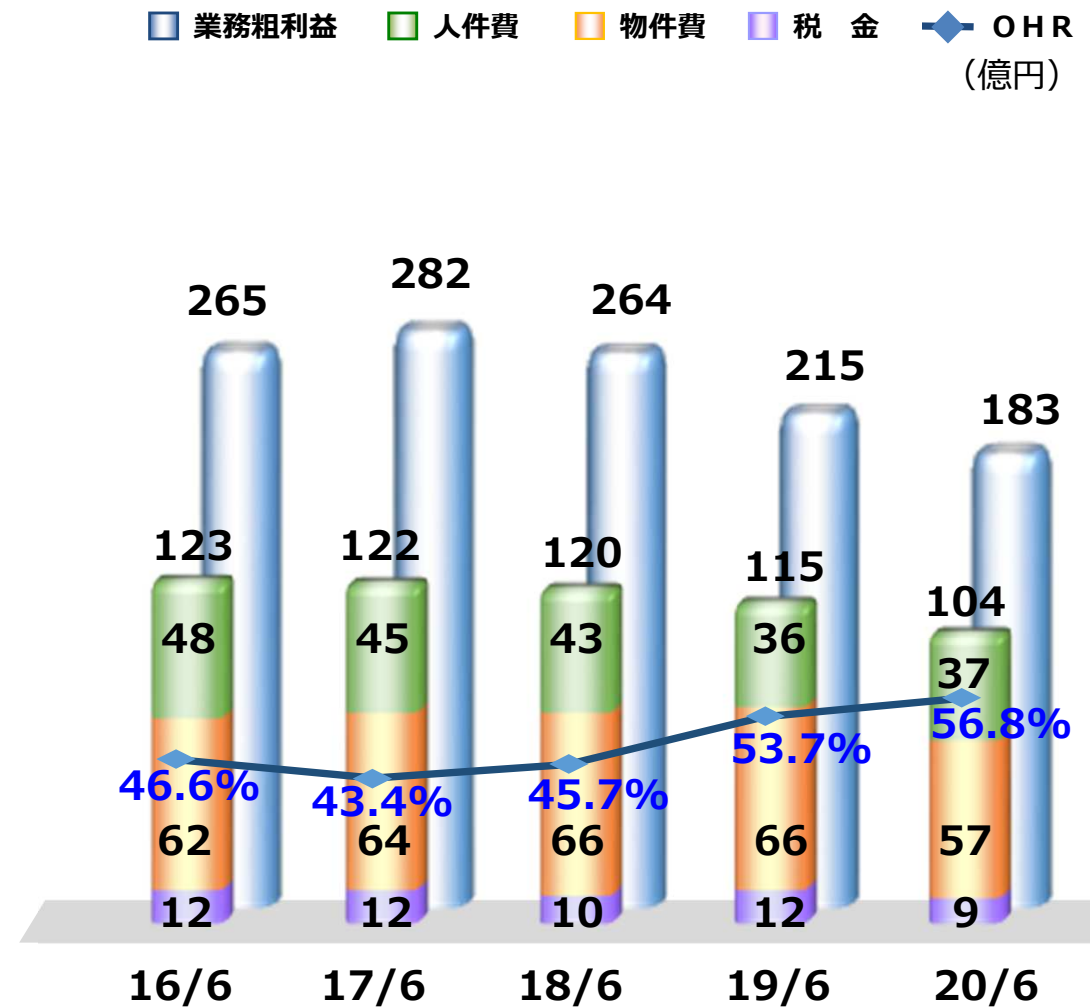
■ 自己資本、経費・OHRの推移について

- ・自己資本比率（単体）は、自己資本の増加とリスク・アセットの減少により前年同期比1.84%上昇し、10.49%。（連結は10.64%）
- ・OHRは、中期経営計画に掲げた構造改革に基づく経費削減に取り組んだものの、業務粗利益が減少したことにより、前年同期比3.1%上昇し、56.8%。

自己資本・自己資本比率 <単体>



経費・OHRの推移 <単体>



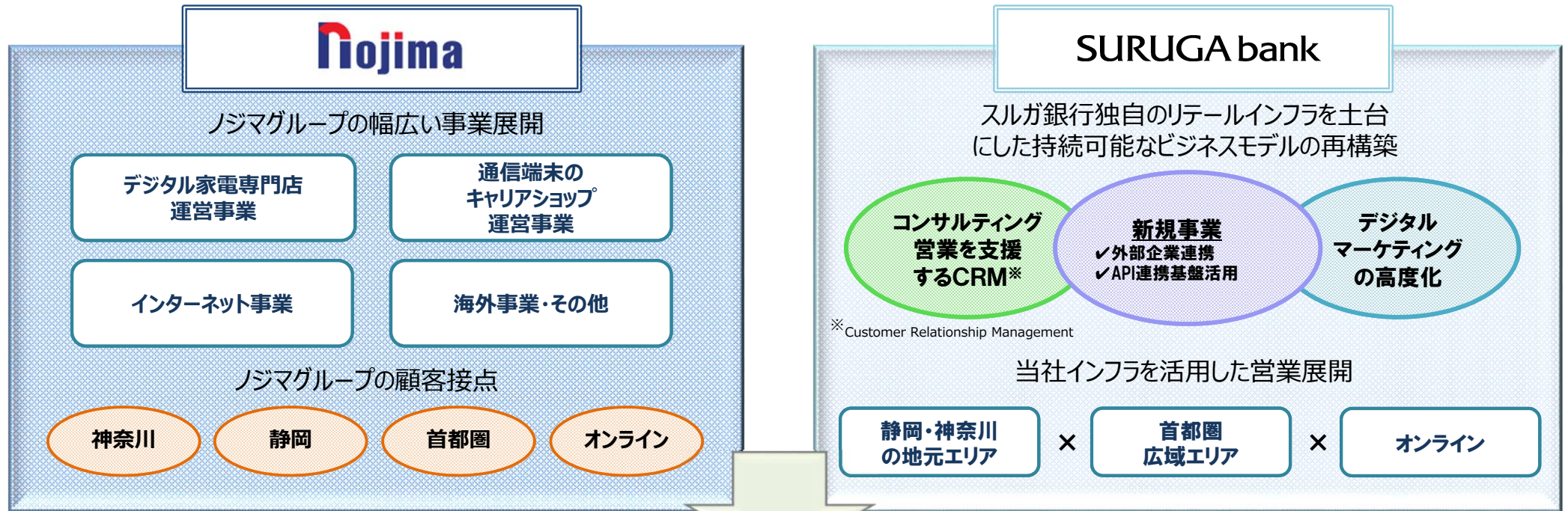
參考資料

■ ノジマグループとの提携について

- ・2020年5月、株式会社ノジマ（以下「ノジマ」という）と「資本業務提携に関する合意書」を締結。ノジマの野島社長を副会長とした新たな経営体制を発足し、両社の関係を強化。
- ・スルガ・ノジマの双方のグループ機能や顧客基盤を活かした相互送客は、様々なタッチポイント※から2020年8月以降、順次ローンチしていくことを決定している。
 ※ 店頭・Web・EDM等
- ・引き続き、両社グループの顧客基盤を活用したWin-Winとなる協業を推進。

業務提携の内容

- ①リテールテックの共同事業化
- ②両社の顧客基盤を活用したオンラインサービス及びフィンテック事業の共同展開
- ③両社店舗での相互商材の販売、販売促進等の営業戦略面でのタイアップ
- ④当社の顧客等に対するノジマ店舗での割引等の提供による、ノジマの商品・サービスのクロスセル
- ⑤首都圏・東海地域を中心とする地域の活性化



「IoT時代の先の新しい業種の構築を目指すノジマ」と
 「お客様の課題解決をサポートする金融機能向上を目指すスルガ銀行」によるシナジーを狙う

■ 2020年度第1四半期実績 前年同期比

- ・業務粗利益は、貸出金利息の減少による資金利益の減少を主因に、前年同期比31億円減少し、183億円。
- ・経費は、中期経営計画に掲げた構造改革に基づく経費削減に取り組んだ結果、前年同期比11億円減少し、104億円。
- ・業務純益は、債権譲渡を希望されるシェアハウス関連融資先のお客さまの返済停止によるランクダウンによる、一般貸倒引当金の取崩し(個別貸倒引当金に振替)を主因に、前年同期比57億円増加し、126億円。
- ・当期純利益(単体)は、上記理由による不良債権処理額の増加と、株式等損益の減少を主因に、前年同期比31億円減少し、2億円。
- ・当期純利益(連結)は、単体と同様の理由から前年同期比33億円減少し、5億円。

<単体>

(億円)

	2019年度 第1四半期 実績	2020年度 第1四半期 実績	前年同期比
業務粗利益	215	183	▲31
経費	115	104	▲11
コア業務純益	99	79	▲20
業務純益	69	126	+57
経常利益	55	5	▲50
当期純利益	34	2	▲31

実質与信費用	64	73	+9
--------	----	----	----

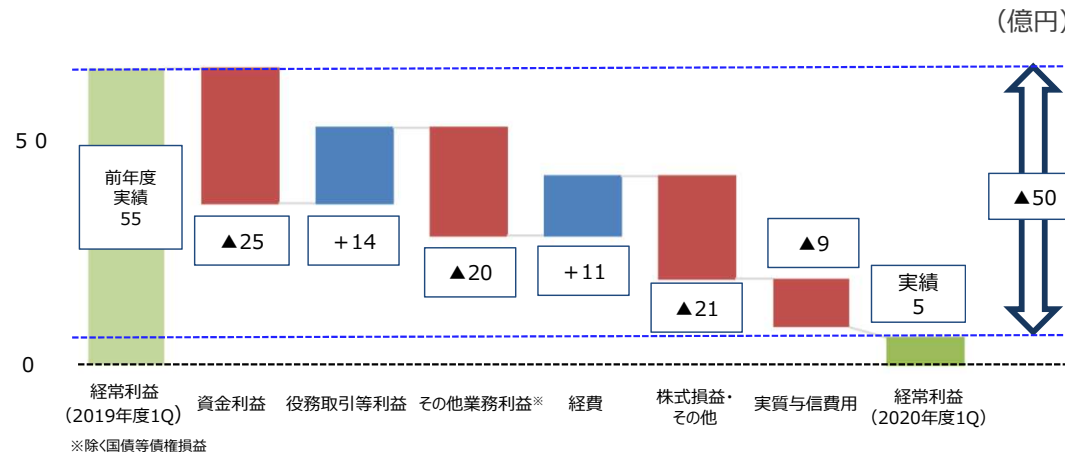
ROE(%) (当期純利益ベース)	6.40%	0.47%	▲5.92%
-------------------	-------	-------	--------

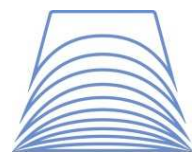
親会社株主に帰属する 当期純利益	38	5	▲33
---------------------	----	---	-----

EPS(円) (連結)	16.6	2.1	▲14.4
-------------	------	-----	-------

経常利益増減要因 (前年同期比)

	主な増減要因
資金利益	・貸出金利息の減少(平残要因▲24億円、利回り要因▲2億円)
役員取引等利益	・証券化に係る支払手数料の剥落
その他業務利益	・証券化に係る売却益の剥落(▲19億円)
経費	・物件費の減少(前期は全件調査に関する費用等を計上)
株式損益・その他	・持合解消した政策保有株式の売却益の剥落(▲18億円)
実質与信費用	・シェアハウス関連融資先の債権譲渡希望に伴う返済停止によるランクダウン・延滞の増加(+22億円)





スルガ銀行

〈 本件に関する照会先 〉
総合企画本部 広報室

[TEL] 03-3279-5536

[メールアドレス] ir.koho@surugabank.co.jp

本資料には、将来の業績に関する記述が含まれています。こうした記述は、将来の業績を保証するものではなく、リスクや不確実性を内包するものです。将来の業績は、経営環境の変化などにより、目標対比異なる可能性があることにご留意ください。